

平成15年住宅・土地統計調査 確報集計結果

● 調査の目的

住宅・土地統計調査は、我が国における住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びに現住居以外の住宅及び土地の保有状況その他の住宅等に居住している世帯に関する実態を調査し、その現状と推移を全国並び地域別に明らかにすることにより、住宅・土地関連諸施策の基礎資料を得ることを目的としている。

● 調査の時期

平成15年10月1日現在で実施。

● 調査結果の概要

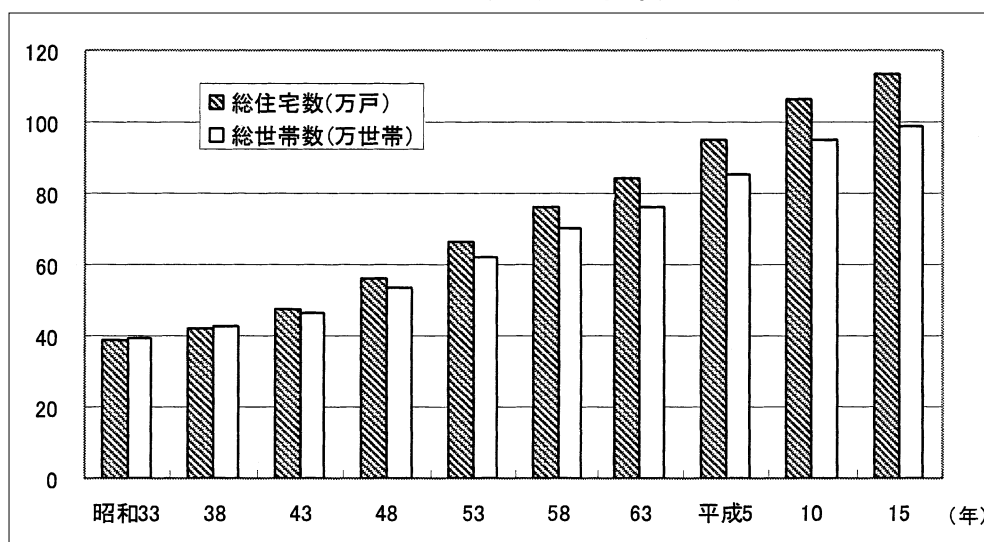
1 住宅・世帯の状況

総住宅数は約7%増加

茨城県の総住宅数は113万5,900戸で、前回調査（平成10年）の106万4,800戸に比べ7万1,100戸、6.7%増加した。

また、総世帯数は98万7,400世帯で、前回調査の93万3,400世帯に比べ5万4,000世帯、5.8%増加した。この結果、1世帯当たりの住宅数は、前回調査の1.14戸から1.15戸に増加した。

(万戸, 万世帯) 図1 総住宅数及び総世帯数—茨城県



2 居住世帯の有無

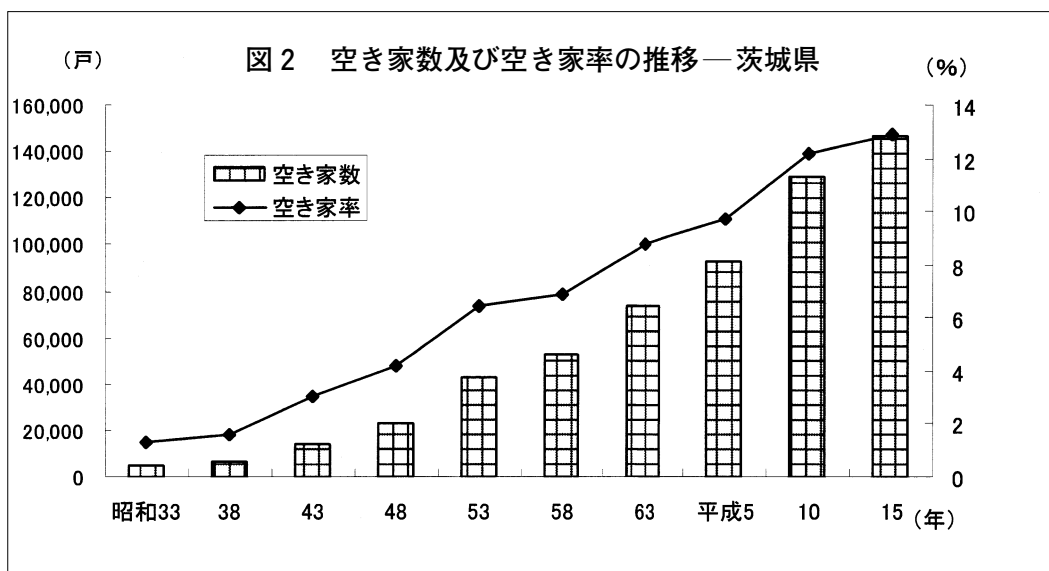
空き家は総住宅の約13%

総住宅数113万5,900戸のうち、居住世帯のある住宅は98万3,000戸（86.5%）、空き家、建築中の住宅など居住世帯のない住宅は15万2,900戸（13.5%）であった。

居住世帯のない住宅の内訳をみると、空き家は14万6,700戸で、前回調査の12万9,400戸に比べ、1万7,300戸、13.4%増加した。

総住宅数に占める空き家数の割合（空き家率）は12.9%で、前回より0.7ポイント上昇した。

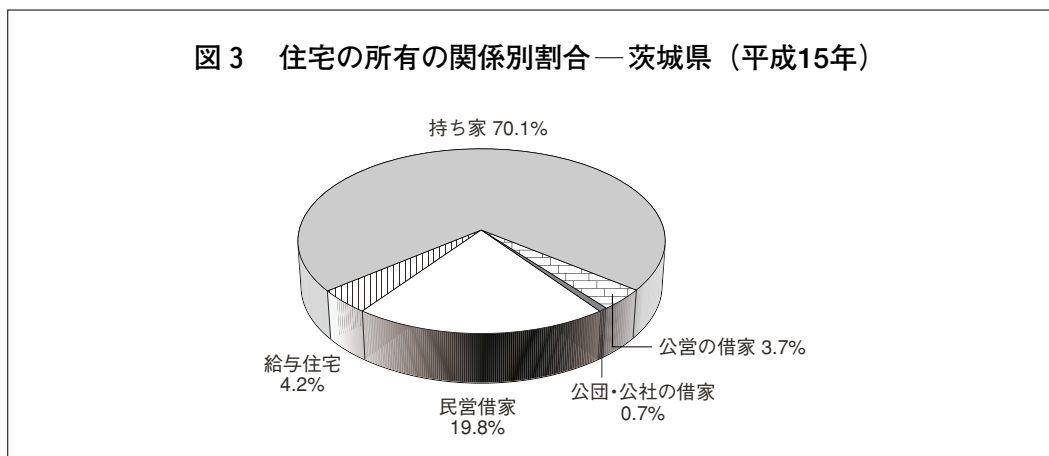
空き家の内訳についてみると、「賃貸用の住宅」及び「売却用の住宅」が合計で9万400戸で空き家全体の61.6%を占めている。



3 住宅の所有関係

持ち家率はほぼ横ばい

居住世帯のある住宅を所有の関係別にみると、持ち家は68万8,800戸で、居住世帯のある住宅全体に占める割合（持ち家率）は70.1%となっており、前回調査の70.4%と比べて、ほぼ横ばいとなっている。

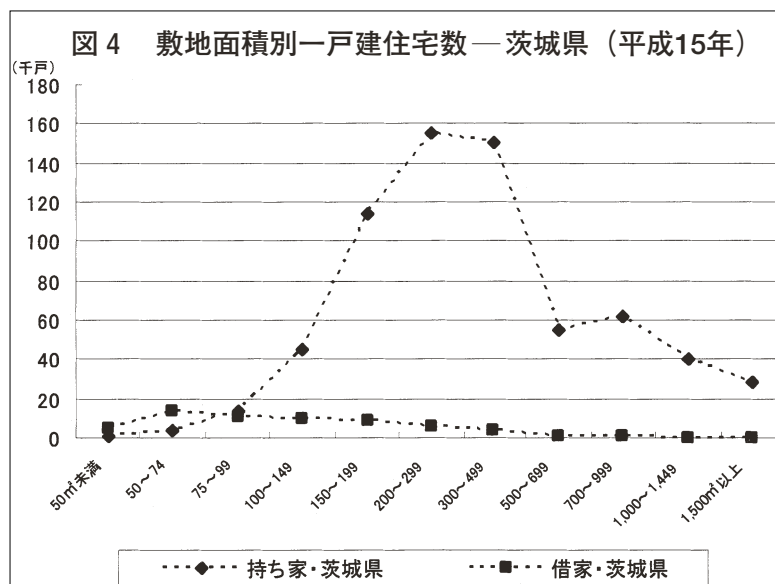


■調査から

4 敷地面積

1住宅当たりの敷地面積は454㎡

一戸建住宅の1住宅当たりの敷地面積は454㎡である。内容をみると、一戸建の持ち家の場合、1住宅当たりの敷地面積が480㎡、一戸建の借家の場合、1住宅当たりの敷地面積が157㎡となっている。



5 高齢者等のための設備

高齢者等のための設備がある住宅は約4割

高齢者や身体障害者などに配慮した住宅設備として、「手すりがある」住宅は31.6%（うち階段21.9%，浴室15.0%，トイレ12.8%など）、「またぎやすい高さの浴槽」があるのは19.5%となっている。

また、平成3年以降建築された住宅に限ると、52.7%が高齢者等のための何らかの設備があり、バリアフリーへの関心が高まっていることがうかがえる。

表 高齢者等のための設備がある住宅の割合—茨城県（平成15年）

項目	住宅戸数	割合(%)
住宅総数	983,000	100.0
高齢者等のための設備のある住宅(全体)	398,200	40.5
手すりがある(全体)	310,700	31.6
玄関	54,300	5.5
トイレ	125,900	12.8
浴室	147,400	15.0
脱衣所	26,700	2.7
廊下	38,500	3.9
階段	215,200	21.9
居室	15,400	1.6
またぎやすい高さの浴槽	191,600	19.5
廊下などが車椅子で通行可能	127,000	12.9
段差のない屋内	127,000	12.9